

練馬区立大泉西中学校 第1学年

令和7年  
1月24日(金)  
第35号

# 学年だより

## ★学校巡回公演

1月17日(金)に狂言師の方をお招きして、学校巡回公演(狂言鑑賞)を行いました。普段はなかなか触れる機会がない日本の伝統文化を身近で鑑賞することができ、生徒たちも真剣な表情で見入っている姿が多くみられました。今回、狂言師の方が披露くださった演目は、「附子(ぶす)」と「柿山伏(かきやまぶし)」、「茸(くさびら)」でした。演目の中で話されている言葉は、伝統的に話されてきた言葉で、現代的な言葉遣いに慣れている私たちにとっては、全てを理解することは難しいものでした。しかし、登場人物の言動をすべて言葉で理解する必要はなく、鑑賞している私たちの想像力によって、内容を楽しむことが大切ということを狂言師の方がおっしゃっていました。見ている生徒たちも、自分なりに想像力を働かせながら楽しんでいたように思います。

また、「茸(くさびら)」の演目には、各クラスの代表生徒2人ずつが参加し、狂言師の方々と一緒に作り上げました。



「柿山伏」の様子



「茸(くさびら)」の様子

## ★各演目のあらすじ

### 「附子(ぶす)」

出かけるご主人から留守番を言い渡された使用人2人は、「猛毒が入っている」と言われた桶の中をのぞいてしまいます。しかし、その中にはとてもおいしい砂糖が入っており、つい全部食べてしまいました。言い訳のため、様々な工作を行います。結局は戻ってきたご主人からひどく怒られてしまうのでした。

### 「柿山伏(かきやまぶし)」

修行からの帰り道、空腹に耐えきれなくなった山伏は、畑に生えた柿の木に登り身を食べていました。そこに畑の主が来て、慌てて身を隠します。畑の主は素知らぬ顔であればカラスだ、サルだと言い、山伏はバレないようにその真似をします。ついには主があればトビだと言い、それに合わせて山伏が空を飛ぼうとした結果、木から落ちて起き上がれなくなってしまったのでした。

### 「茸(くさびら)」

ある男の家に、ある日突然得体のしれない大きな茸(くさびら)が大量発生してしまいました。元に戻すため、山伏に祈禱を頼みますが、山伏が払おうとしても祈れば祈るほど茸は数を増やし、動き回り、いたずらをします。ついには、山伏は疲れ果てて逃げ帰ってしまうのでした。

\*代表生徒たちは、男の家に現れて山伏にいたずらをする茸を演じました。狂言師の方のセリフや演技に合わせて、それぞれの役割をしっかりと果たし、とてもユニークで充実した演目になりました。

## ★今後の予定

日時	時程	予定
1月27日(月)	50分×6	都立入選(推薦)
1月28日(火)	50分×6	
1月29日(水)	50分×5	
1月30日(木)	50分×6	
1月31日(金)	50分×6	都立入選(推薦)発表

